

令和8年3月13日

鹿児島県テニス協会会員のすべての皆さんへ

大混乱に陥っている県テニス協会執行部（第一回）

テニス協会高校部門不正会計事件とその後

この文は、決して大げさに書いていません。本当です。

鹿児島県テニス協会の会長、理事長の責任を問う会（略称、責任を問う会）最勝寺 和夫

I 事件発覚から4年経過してもまだ未解決

2022年5月、県テニス協会高校部門会計不正を問題提起した事を理由に、某氏は、当時の副理事長を解任され、翌2023年3月書面決議によって除名された。

2023年6月に行われた総会では、高校部の会計は調査をしたが“不正はなかった”と言い切った当時会計担当副理事長の山口氏と谷口の両氏。ところが、同年7月に不正会計が新聞報道されると態度を一変、ようやく200万円超の不正があったと認めざるを得なくなった。同年9月臨時総会を開催、執行部は不正会計を認めI元高校委員長に300万円の返還を求めると説明する。その場で「除名」処分に対する疑義も噴出、当時の江籠理事長は、第三者委員会を設け不正問題と除名問題を調査すると明言したが、何故か「除名問題」は調査内容から外される事になった。

ところで、某氏は、鹿児島県テニス協会約80年の歴史の中で、ジュニア、高校（高体連専門委員も含む）、一般の3部門で、約34年間、競技役員（その間、国体強化担当も歴任）をした経歴のある唯一の人である。また、某氏は、ボランティアで一人で入来ジュニアテニスクラブ、白銀坂ジュニアテニスクラブ（始良市）を作り、高校では、鶴丸高校、宮之城高校でテニス部を創設し、底辺拡大に尽力した人である。このような事は、テニス関係者なら皆知っている。なぜ、協会は、除名したのか。

聞くところによると、某氏は、鹿児島県・宮崎県テニス対抗戦を、宮崎の森太木郎さん（故人、枕崎出身、宮崎のジュニア指導者）と話し合っって原案を作り、二人で当時の両県執行部に働きかけ実現までこぎつけたという。また、2023年国体成功に向けての財源確保を目指して、2018年5月15日県テニス協会発行の公文（稲葉直寿会長名）の原案作成者でもある、という。

II 第三者委員会（弁護士2人と税理士1名）は2024年6月、最終報告書を報告、公表した。この最終報告書は、既にネットでP1～P31を誰でも閲覧できる。「鹿児島県テニス協会事件第三者委員会最終報告書」で検索するとすぐ読める。

1、高校委員長 I 氏の不正行為について

- ①、高校委員長 I 氏の366万円にのぼる金額の不正を認定、杜撰な経理処理を指摘。
- ②、I 氏は「私的流用はしてないとの事であるが、それを明らかにできる裏付けは一切ない」と明記。
- ③、「むしろ、高体連とテニス協会の会計を混在させてしまい、支出を全く整理・峻別できなくさせてしまっている」こと。
- ④、「預金の引き出しもアバウトになされていること、それらを証する領収書を自ら破棄していることから、I 氏の言い分を鵜呑みにすることはできない」としている。

2、最終報告書はテニス協会の執行部についてどのように書いているか。

- ①、「テニス協会の責任も重大」
- ②、「高校3大会の最終的な会計責任は、大会を主催するテニス協会が負うべきもの。」
- ③、「主体的な管理を怠ってきたテニス協会の責任は大きいと言わざるを得ない。」
- ④、「テニス協会の、高校3大会主催者及び会計責任者としての当事者意識及び責任感の欠如は極めて問題であり、その責任は重大である。」
- ⑤、「本件不正会計が起きた要因として、このようなテニス協会の組織体制の不備があると言うべきである。」
- ⑥、「テニス協会の本件に対して向きあう姿勢も問題であったと言うべきである。」
「よくする会（会計不正を隠し I 氏を擁護した執行部の姿勢を正そうと2022年7月にできた団体）代表から問題提起がなされたが、これを受けてもテニス協会は当該者からヒヤリングをする程度に留め、マスコミによって公になるまで本格的な調査を行おうとしなかった。」
- ⑦、「その後、テニス協会による調査が行われたが、それによっても本件不正会計の不正額を明らかにするに留まり、問題点の抽出や原因背景の分析、抜本的な改善を行う姿勢は見られなかったと解される。」

3、某氏の除名問題についての最終報告書には次のような記述が書いている。

- ①、「某氏の除名問題に対しては、具体的な調査はできなかったが、事案の経過から、本件不正会計の問題提起が原因、或いは遠因となっている可能性は推測されるところであり」
- ②、「仮に、本件不正会計の問題提起を行ったことを理由に、或いは主因として除名がなされたのであれば、それは不適切なものとなり得ることを付する」

4、テニス協会は、第三者委員会の報告を受け2024年7月23日、大西会長名で6月23日付けの「除名解除」を某氏に通知。しかし、発送日の記載無し、除名解除の理由無し、一言の謝罪の言葉も無し。

無実の人を罰した自らの責任には一言もなし。フェアプレーの精神無し。

正しい指摘をした人の命を奪いかねないほどの大変なことをしながら・・・。

(最後に 家族会が出した資料を添付)

Ⅲ、たいへん怖いことをしながら、今も役員をし続ける多くの人たち。

執行部は新体制を組んだが、正しい指摘をした某氏を実質的に、解任・除名した。一方、正しい指摘をした某氏を、全員一致で除名した本坊前会長、江籠理事長、大西現会長、加覧理事長ら、当事者の役員のほとんどが現在も会長、理事長をはじめ常任理事として残っている。「会計一部事務的ミス」の言葉で多額の約400万の不正を隠そうとした江籠理事長は顧問として残り、約20年以上に渡って約400万の不正を、見て見ぬ振りをしてきたI氏を擁護した山口副理事長は、今の大西新体制でも「競技委員会の委員として正式にメンバー登録」されている。反省のかけらも見られない。

また、大西現会長、加覧理事長は、令和6年12月10日、令和元年ジュニア部門で、業務上横領（犯罪）、他人の印鑑無断使用（犯罪行為）をした或るジュニア委員を「ジュニア委員会の委員として正式にメンバー登録」したと、某氏らの「よくする会」に答えている。ここでも反省のかけらも見られない。或るジュニア委員は、6年経過の今も、公式大会でジュニア委員として、堂々とオフィシャル活動をしている。こんな話は、私は、聞いたことがない。

Ⅳ、4年経過の現在、大西現会長、加覧理事長体制は、未だに業務上横領（犯罪）

者、や「見て見ぬふり」をしていた会計担当山口前副理事長に対して指導、処分を公表していない。実は、彼らは指導処分できないのである。理由は、自らも不正の加担者だからです。

- ①、2022年5月に問題化したこの事案も、あれこれ4年の月日が経過しようとしているが、執行部は不正をしたI元高校委員長、それを隠蔽した会計責任者山口副理事長の処分をいまだに行わず公表していない。
- ②、鹿児島県テニス協会高校部門の不正会計を内部告発をした某氏を、何の根拠もなく不当に解任し除名してまで、元高校委員長I氏を庇わなければいけなかったのは何故か。
- ③、執行部の誰として某氏に謝罪して、現場復帰をさせようと言わないのか等、組織として体をなしていない証拠である。

V、今も、公式大会で堂々とコーチをする I 氏。見て見ぬ振りをする協会関係者

- ① また、驚いた事に366万円業務上横領（犯罪）した I 元高校委員長は現在も公式大会で生徒の指導を堂々と行っている。名前こそ表には出ていないが、公式会場に現れ、試合後には生徒にアドバイスをしている。
- ② 生徒が問題（例、喫煙）を起こせば出場停止になるのに、業務上横領（犯罪行為）や他人の印鑑無断使用（犯罪行為）をした教員には何の処罰もないのか？ 学校側は、この教員に処分はしていないのか？
- ③ 高体連は、高体連主催の大会にこの教員の実質参加を認めているのか？
- ④ 県テニス協会は、県テニス協会主催の大会にこの教員の参加を認めているのか？
一般社会では、他人のお金を横領すれば必ず処分がくだされます。不思議でたまりません。

VI、前代未聞のことが、今、高体連専門部門内（公費）で起きている。

ここに来て、高体連テニス専門部内で不正が表面化している。公金の不正使用であり、今後どうなるのか予測がつかないほどの大きな不祥事である。逮捕者が出るかもしれない程の問題でもある。納税者の県民の立場からすると、公金である以上、徹底した調査と公開が必要である。高体連そのものが問われるほどの大きな不祥事である。いずれ県民に明らかにされることを望む。

鹿児島県テニス協会の会員の皆さん、この現状をどのように思いますか？

- ①、某氏は、副理事長解任後“鹿児島県テニス協会をよくする会”を結成し、まだまだ未だに納得出来ないと、文部科学省（国体担当など）、日本テニス協会他に問題提起をしています。
- ②、県テニス協会は再三の調査依頼や証拠書類を指示されても、誠意ある行動は一向に見せず。
- ③、逆に「身勝手な某氏のスタンドプレイで外部機関に混乱を与え、組織内外の秩序を乱し、信頼関係を著しく損ねた。」と、加覧理事長は言い出すありさま。第三者委員会の高名な弁護士、税理士の職務の尊厳を完全に否定している。また、この加覧理事長の言葉は、皮肉にも大西会長の引責辞任を理事長として間接的に誘引することになる公式表明でもある。なぜ、火に油をそそぐような不用意なこんな発言をしたのだろうか。
- ④、除名解除を通知した後も自分たちに過ちはない、不備を指摘される個所は当たらないと反論までしている。謝罪の気持ちのかけらもない。
- ⑤、この後常任理事会や定期総会が開かれるが、協会執行部は、I元高校委員長と山口元会計責任者にどういう処分を下すのか？ I元高校委員長のみに返金を押し付けるのか？
おそらく処分しないだろう。なぜなら、大西会長、加覧理事長は、不正の加担者だから。
- ⑥、第三者委員会で指摘された、自分たち会長、理事長などの返金問題をどうするのか？
第三者委員会の指摘を踏み倒すのか？
- ⑦、某氏へ謝罪はするのか？ 某氏の現状復帰は？
- ⑧、不正解明に尽力した人たち3名が、会長、副会長、理事長、副理事長、顧問等への就任を認めるべきだ。

まだ問題は全く解決していない。

それともうやむやにして、ほとぼりが冷めるのを待つのか？

皆で、注意深く見ていきましょう！

とにかく、たいへんな事態になっている鹿児島県テニス協会大西執行部である。

次は、2025年6月10日、家族の会 **夫千尋** さんが、県庁内の記者会見で述べたものである。

県テニス協会にも30部届けたという。「2025年6月21日の総会の際出席の理事の皆さまに配布して下さい」と伝えたという。総会の理事(約50名?)は、皆、読んでいることになる。

県テニス協会の会長はじめ執行部 様

家族会の思い

県テニス協会による除名被害者の家族の会 **夫千尋**

近畿財務局の赤木俊夫さん、和歌山市役所男性職員、最近では兵庫県庁の2人の男性職員の自死など内部告発を理由にした悲劇が起こっています。自死が報じられるたびに他人事とは思われません。ご本人の思いとご家族の心痛を思うと胸が痛みます。

○最近、**公益通報者保護法の改正**が報じられ、何件かの当事者のケースが新聞等でとりあげられました。県テニス協会にはこの法律は適用されませんが、事件の中身は全く同じです。

○夫は、**内部告発をして除名処分を受けました。除名は永久追放だよ**と言いました。本人の問題は家族の問題でもあります。孤立無援の心細さを痛感しました。

3年前の5月末、集団リンチとしか思えないような状況下で夫は口止めの署名を求められました。やっとその場を離れて帰宅する途中、一瞬、JRに飛び込もうと思ったと話しました。

それから私たちの生活の日常は暴風雨に襲われたように一変しました。以前はこのような事件は全く関係ない、私の日常にはあり得ない事だと受け止めていました。

その後、協会に会計調査を求める文書を送っている最中に、弁護士から“今後も同様の行為を繰り返される場合、通知人としては鹿児島地方裁判所に対して仮処分の申し立て等を実行する～”との脅迫のような文章が届きました。私たち家族も恐怖を感じました。

○テニスを通じて子ども、生徒、友人たちと**楽しい時間**を持てたことは夫にとって生涯の宝です。テニス協会にはお世話になったから、人生最後の仕事だと

先ず協会内部に問題提起したのです。特に鹿児島国体成功の為に協力した多くの人たちのお金の行方が分からないと頭を抱えておりました。家族はこの間の本人の葛藤と苦悶を身近で見てきました。

○現在、県テニス協会では会計不正があったという事実を第三者委員会も認めています。しかし**協会は解任、除名処分した人に対して一言の謝罪がありません。**

3年前の5月、協会執行部がきちんと問題提起に向き合っておれば、全国に鹿児島県テニス協会の汚名を流布することなく、また第三者委員会の費用(約170万円)とか弁護士費用とか必要なかったと思います。

○今となっては会長、理事長はじめ執行部こそ、結局は鹿児島県テニス協会の名誉を傷つけ、協会に損害を与えていることになると思います。